

金・ルビー・銀・銅祝式典

卒業後の節目を祝う

2月22日、四谷キャンパスで、金・ルビー・銀・銅祝式典が挙行された。この式典は、卒業後50年(金祝)、40年(ルビー祝)、25年(銀祝)、15年(銅祝)の卒業生を招待して祝う大学主催の行事。式典後には、立食形式の祝賀会が開催され、旧友との再会を懐かしむ卒業生でキャンパスは賑わった。

今年度は、金祝(1974年卒)348人、ルビー祝(84年卒)389人、銀祝(99年卒)293人、銅祝(09年卒)357人、合わせて1,387人の卒業生が四谷キャンパスに集まった。式典には、暁道佳明学長、サリ・アガスティン理事長および鳥居正男ソフィア会会長が登壇し、全員で校歌を斉唱し始まった。



金祝代表として謝辞を述べた白石和子さん(1974年外露卒)

暁道学長は式辞で、卒業生が長年にわたり物心両面で支えてくれていることへの感謝を述べた上で、大学の近況を報告。「先人達の長年の努力、そして卒業生の皆様一人一人の歩みこそが本学の必然性ある発展を導き、その発展の流れを世に示してくださって

います。国際的な教育環境の増強や様々な立場の人が集まる多層的な学びの空間の構築により、本学はこれからも発展し続けていきます。卒業生の皆様の本学を思う羽ばたきが、在学生の大きな羽ばたきを導いてくれます。これからも皆様の頭の片隅に本学を置いていただくことが、本学の何よりの励みになります」とさらなる協力と支援を呼びかけた。続いて、各祝の代表者にラテン語で記された祝状と花束が贈呈された。

次に登壇したアガスティン理事長は、各祝の卒業生の在学中の出来事を振り返り、各祝の「祝」にあたる「Jubilee」のラテン語「Jubilum」が「喜びの叫び」の意味であることを紹介。式典で喜びの叫びを共にできることに感謝すると共に、日本のみならず国際社会へ貢献する卒業生に敬意を表した。そして、「本学は先輩ソフィア

ンの皆様からの母校愛を受けて発展しています。皆様のご支援に御礼申し上げますとともに、引き続き本学へのご支援ご協力をお願いします」として、挨拶を締めくくった。

鳥居ソフィア会会長は、「おかえりなさい」と呼びかけ、家族もソフィアンであることや母校への貢献・卒業生同士の懇親を胸にこれまで築かれてきたソフィア・ファミリーの絆について触れ、ソフィア会はいつでも卒業生の来訪を歓迎していると述べた。

続いて、各祝の代表者から謝辞があり、在学時の思い出や同期への想い、そして上智大学で学んだことが今の自分を形作っていることなどが語られた。

式典の最後には、体育会応援団による祝賀パフォーマンスが披露された。応援団からのエールに、会場は大きな拍手と笑顔に包まれ、華やかな雰囲気の中、式典は終了した。

2024年度学長賞

個人1人と1団体が受賞

2024年度学長賞の受賞者が決定した。同賞は、創立100周年記念事業の一環として2009年に設けられた学生表彰制度。本学の学生または学生団体の、スポーツ、文化・芸術、環境、地域・社会貢献、国際交流、ダイバーシティ・共生などの各分野において他の模範となる優秀な成績を収めた者、本学の名誉向上に著しく貢献した者を顕彰するものである。

今年度は個人1人と1団体が受賞。受賞者および受賞理由は、次のとおり。

■ホセイ有栞(総教2)

SPSF) / 上智大学体育会

水泳部に所属し練習を重ねる中、2024年第33回

オリンピック競技大会(パリオリンピック)の競泳競技(50m自由型)にパラオ代表として出場し、自己ベストを更新する快挙を成し遂げた。本学学生のオリンピック出場は過去に例がなく、国内外における本学のプレゼンスを著しく高め、本学の名誉高揚に貢献した。

このほか、体育会が主催する「ソフィアスポーツ大賞」を受賞し、また本

学SSIC(Sophia Student Integration Commons)の企画では、体育会以外の上智学生へも大会の経験を伝える活動を通じて成果を還元しており、学内への貢献度も高く評価された。

■法学部法律学科 国際取引法ゼミ(19人)(代表:深江夏蓮・法法4) / 第23回大学対抗交渉コン

ペティション総合2位、英語の部第3位、日本語の部第2位を受賞。日本語の交渉の部では最高得点を記録した。

大学対抗交渉コンペティションとは、毎年1回、2日間にわたって行われる仲裁・交渉の大学対抗戦で、今年度は日本の20大学とオーストラリアやシンガポールなど海外からの9大学、合計約300人が参加した。日本語の部と英語の部があり、国際取引法ゼミは日本語の部に3チーム、英語の部に1チーム、計4チーム19人が出場し、総合成績で29チーム中第2位という本学歴代最高の成績を収めた。また、日本語の交渉の部では第1位、日本語の部の総合第2位、英語の部の総合順位でチーム・オーストラリア及びシンガポール国立大学に続いて第3位(日本の大学でトップ)を獲得したことが高く評価された。

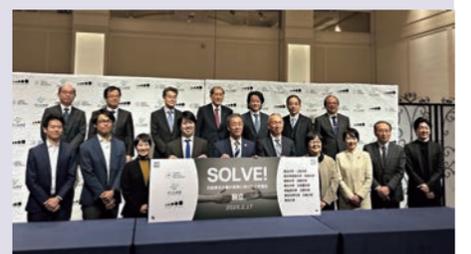


13大学で協働する大学連合に参画

Well-beingの実現と社会課題の解決に挑む

本学は、2月17日に設立された「共助資本主義の実現に向けた大学連合(SOLVE!)」(以下「大学連合」)に参画する。共助資本主義とは、23年4月に経済同友会が新しい経済社会モデルとして提唱したもので、民間主導で構築する成長と共助の両立を目指した日本ならではのWell-beingの実現を創出する。大学連合では、経済同友会やNPO団体、スタートアップ企業と連携し、産学官民の垣根を超えて社会課題の解決に向けた教育プログラムの提供をはじめとする共助人材の育成及び交流、研究プロジェクトを協働実施していく。

この取り組みは、本学の暁道佳明学長と東京大学の藤井輝夫総長が発起人となって呼び掛け、東北大学や早稲田大学など13大学が賛同し参画している。今後、所属大学に関係なく参加可能な社会課題解決型プログラムのほか、社会起業支援プログラム、ソーシャルセ



暁道学長が発起人となって呼び掛けたクターとの連携、震災復興ボランティア、各種インターンシップなど、多岐にわたる取り組みを予定している。

暁道学長は「社会課題の多様化といきすぎた資本主義経済など、社会が複雑化するなかで、企業やソーシャルセクターが連携し、さらに大学連合が加わることで、若者による社会課題へのアクセスが容易になる。経済界、NPO、インパクトスタートアップ、大学というセクターを超えた新しい取り組みに現在注目が集まっており、大学が有する高度な知見の活用や、教員・学生の参画にも大きな期待を寄せている」と話している。



目的を明確に

互井 夕稀
(総4)
外務省 内定

就活の過程ではたくさん壁がありました。公務員試験の勉強が思うように進まず落ち込んだり、民間就活との両立に悩んだり、目指す進路が自分に向いていないのではないかと感じることもありました。そのたびに、ついネガティブな思考に陥ることもありました。特に、公務員を目指す方の中には、周りの就活状況と比較して焦りを感じながら勉強を進めている方も多いのではないのでしょうか。

試験や面接を控える中で、不安を抱えていない人はほとんどいません。そのため、不安の中でもがいている自分を受け入れ、目的を見失わないことが大切です。私は、自分が何をやりたくて、なぜその仕事、その組織でなくてはならないのかを明確にすることを心掛けていました。自分自身と対話を繰り返し、また周りの友人と一緒に追求することで核となる部分が見えてきます。

逃げ出したくなった時、努力する理由を何度も思い出すことで最後までやり抜くことができると思います。また、その職業を目指したきっかけを忘れないようにして欲しいです。困難な状況で、あともう少し頑張るための原動力となります。



見えない将来からの逆算

小林 巧実
(外西4)
株式会社ニトリ 内定

私は将来を具体的に想像すること、そしてそこから逆算して考えることが苦手です。しかし同時に、就職活動においてこれが必須であるように感じました。スタートが遅かったこともあり、業界をあまり絞らずに各企業の取り組みや業界の展望について調べ、これまでの海外経験や大学での学びがどのように生かせるか、自分なりに逆算して選考に臨みました。その結果は35社からの「お祈りメール」でした。

何かを変えなければならぬと感じ、私は一旦自分がどのような仕事をしたいのかについてだけを考えました。そこで出てきた答えはとてもシンプルで、「海外とのつながりがある仕事」と「人の暮らしを豊かにする仕事」でした。ここまで抽象的なものを「就職活動の軸」と宣言することは少し気が引けましたが、この軸に沿って就活を進めたことで自分を偽らずに話すことができ、選考の通過率も上がりました。

この経験を経て、就職活動は想像した未来に自分を当てはめるのではなく、今の自分がどのような道を進みたいのかを考える、自分自身のためのものであると痛感しました。



サイの角のように

菊岡 駿一郎
(文国4)
学校法人立命館 内定

「サイの角のようにただ独り歩め」という、ブッダの言葉を聞いたことがあるでしょうか。群れることをしない(とされる)インドのサイになぞらえ、人間もまた群れるばかりではなく、一人で進むべき時があるという意味です。

今回この言葉を取り上げたのは、仏教の教えを説きたいからではありません。実は、私が就職活動をする際に大切にしていたのが、この「サイの角のようにただ独り歩め」という言葉だったのです。私は学校教員を目指して活動し、結果的にその道に進むことができました。しかし、教員を目指す仲間は周囲に少なく、時には不安を感じることもありました。そんなとき、この言葉が、「自分の信念や希望に従うべきだ」と私を勇気づけてくれたのです。

皆さんにも、「群れる」ことなく自らの道を選び取って欲しいと願っています。もちろん、就職活動で友人や仲間と協力することは大切です。しかし、他人と「群れる」ことで自分を見失ってしまうのは元も子もありません。時には積極的に「孤独」を選び取り、「サイの角のように歩む」姿勢を持つことも、重要であると信じています。